

2021 年 11 月 15 日

通貨ニュース

メキシコ: インフレ再加速に強まる Banxico の警戒感

メキシコ中央銀行(Banxico)は11月11日、金融政策決定会合を開催し、政策金利(翌日物金利)を25bp引き上げて5.00%とすることを決定した(図表1)。利上げは6月以降、4会合連続。声明文によれば、決定は前会合に続き、多数決によって行われた。ディアス・デ・レオン総裁含め5名の委員の投票行動は前回から変わらず、4名が利上げを主張、1名は据え置きを主張した。

Banxico が追加利上げに踏み切った理由は、従来と同様に、足許でのインフレ圧力が予想以上に強まっていることと、長期化しうることへの警戒感だ。10月の消費者物価指数(CPI)は前年比+6.24%と前月(同+6.00%)から加速。8か月連続で同行の目標レンジ(前年比+2%~+4%)を上回った。また、CPIは4月(同+6.08%)をピークに徐々に減速しつつあったが、9月以降、再び加速しつつある(図表1)。

先々のインフレ見通しについても、Banxico が実施している月次市場サーベイでは、じりじりと上方修正が続いている。9月下旬に行われた市場サーベイでは、市場のCPI見通しは2021年が前年比+6.60%、2022年は同+3.93%と前回サーベイ結果(それぞれ同+6.26%と同+3.84%)から引き上げられた。

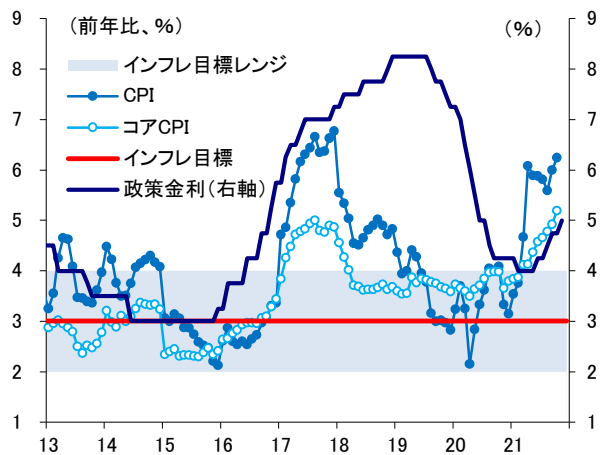
Banxico の公表した最新のCPI見通しでも、足許の2021年10~12月期から2022年7~9月期にかけての4四半期について、前回会合時点から上方修正が加えられている(図表2)。なお、声明文によれば、インフレ率が同行の目標値(前年比+3%)に落ち着いてくる時期を「予想期間の最後までには(by the end of the forecast horizon)」としており、前回会合から書きぶりに変化はない。もっとも、今後4四半期についてのCPI見通し上振れで生じるはずのベース効果を考慮すると、インフレ圧力は従来想定よりも長期化したと読み取れる。

実際、Banxico はインフレのリスクバランスについて、従来からの上方に傾いているとの認識に、「悪化している(deteriorated)」の文言を加えて警戒感を強めている。また、足許の物価上昇要因についても一時的なものになるとしつつ、影響を及ぼす期間がどの程度続くのか分からないほか、すでにかかなりの規模(considerable magnitude)をもって広範な品目に及んできていると指摘。価格形成プロセスおよびインフレ見通しにより大きな(greater)リスクをもたらす可能性がある、と、従来以上に警戒感を強調している。

そして、次回会合(12月16日開催予定)に向けては、インフレ及びインフレ見通しに関するBanxicoの予測軌道に影響を与えうるあらゆる要因とともに、実際のインフレ圧力の動向を徹底的に評価するとした。高いインフレ率そのものが、将来のインフレ率やインフレ見通しに上昇圧力を加えうるとの問題意識がうかがえる。インフレ加速が続いていれば、25bp超の利上げ観測も高まろう。現総裁にとって最後の会合である点も思惑を呼びそうだ。

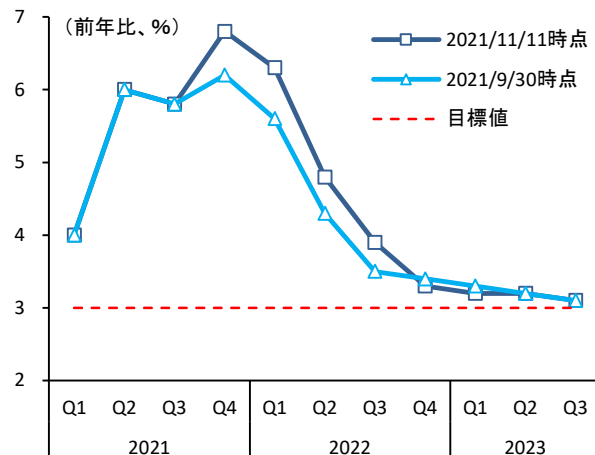
市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 政策金利とインフレ率



出所: メキシコ中央銀行、地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: Banxico の CPI 見通し



出所: メキシコ中央銀行、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。